

2016年3月期第1四半期 ご参考資料

日本通運株式会社
経営企画部(IR)

I. 経営状況	
A. 2016年3月期第1四半期決算の概要	P. 1
B. セグメント別状況	P. 2-
II. 経営計画の進捗状況	P. 7
III. 外部環境の変化	
A. 増減要素(1Q)	P. 8
B. 外部要因の想定(2Q以降)	P. 9

2015年7月31日

I. 経営状況



A. 2016年3月期第1四半期決算の概要

1) 概要 (連結)

(単位: 億円、%)

	2016/3期 1Q実績 ①	2015/3期 1Q実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷② X100	上半期予想 (5月8日 発表) ⑤	進捗率 ①÷⑤ X100	差額 ⑤-①	通期予想 (5月8日 発表)
売上高	4,743	4,529	214	4.7	9,730	48.8	4,986	20,000
営業利益	105	91	13	14.7	230	45.9	124	540
経常利益	132	120	12	10.4	280	47.4	147	630
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	81	47	34	74.1	165	49.7	83	340

(億円未満切捨て)

2) 連結経営指標

(前年同期実績)

・売上高営業利益率	2.2%	(2.0%)
・売上高経常利益率	2.8%	(2.7%)
・ROE	6.1%	(3.6%)
・ROA	2.3%	(1.4%)

◇事業環境に関する認識と確認(経済環境)

政府の経済政策や日本銀行の金融緩和政策などを背景に、企業収益や雇用情勢が改善傾向にあり、景気は緩やかな回復基調で推移。

一方で、個人消費は持ち直しの兆しが見られるものの、本格的な回復には至っておらず、先行き不透明な状況が継続。

◇事業環境に関する認識と確認(物流業界の状況)

国際貨物は好調な米国経済を背景に回復基調を示したものの、国内貨物は、企業の生産活動が一時的に弱含み、個人消費の伸び悩みなどから、荷動きは低調に推移。

◇通期の業績予想

5月8日発表の業績予想を据え置いた。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

1) 複合事業

(単位：億円、%)

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	1,805	1,809	△3	△0.2	3,660	49.3	1,854
セグメント利益	40	25	14	58.2	92	44.1	51
概況	<ul style="list-style-type: none"> トラック輸送は、営業日数△1日による物量減を料金改定の効果で補い、前年並みの売上高を確保。 倉庫における食料品関連の取扱が増加し、通販関連をはじめとするロジスティクス業務も順調に推移。 						

2) 警備輸送

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	136	138	△1	△1.2	278	49.1	141
セグメント利益	4	3	1	53.0	5	87.5	0
概況	<ul style="list-style-type: none"> 一部の不採算業務から撤退したことにより売上げは減少するも、利益率が改善し、増益。 						

3) 重量品建設

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	136	127	8	6.8	257	53.1	120
セグメント利益	8	5	3	53.8	11	76.6	2
概況	<ul style="list-style-type: none"> 前年に旺盛だった国内のシャット・ダウン・メンテナンス業務の反動減を、マレーシア、ベトナムでの大型プラント工事などがカバーし、増収。 						

Copyright © 2015 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2016年3月期第1四半期 ご参考資料

2

※以下、セグメント毎の概況は、第1四半期単四半期の内容

◇複合事業・・・減収、増益

個別の売上高の数字をベースとして説明。

鉄道取扱の売上高は+0.4%。自動車関連の荷動きは低調に推移したが、飲料関連が好調を維持。

自動車全体の売上高は△0.7% (積合せ△0.6%、貸切り△0.7%)。

鉄鋼関連の荷動きの弱さや、営業日数△1日による物量減の影響を受けたが、料金改定の効果でそれらを補い、ほぼ前年並みの売上高を確保。

倉庫の売上高は+3.2%。食料品関連の取扱増に加え、通販関連をはじめとするロジスティクス業務が順調に推移。

◇警備輸送・・・減収、増益

一部の不採算業務から撤退したことにより売上げは減少したものの、利益率が改善し増益。

◇重量品建設・・・増収、増益

国内では、前年に旺盛だったシャット・ダウン・メンテナンス業務の反動減があったものの、海外において、マレーシア、ベトナムでの大型プラント工事などが順調に推移し、増収。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

4) 航空

(単位：億円、%)

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	445	443	1	0.4	939	47.4	493
セグメント利益	5	6	△0	△11.1	27	21.5	21
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出貨物の重量が増加し、輸入貨物の取扱いも増加。 ・ 輸出において、仕入単価が大幅に上昇、差益率が低下した状態で推移し、減益。 						

5) 海運

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	305	292	12	4.4	611	50.0	305
セグメント利益	19	15	3	25.0	32	59.1	13
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出において、主に設備輸送関連が売上げを支え、増収。 ・ 海外引越が輸出入ともに好調を維持し、利益面でも大きく貢献。 						

◇航空・・・増収、減益

日本発輸出航空貨物の取扱い重量は+4.1%。

方面別の内訳では、米州地域向けが+7.7%、欧州地域向けが+9.5%、アジア・オセアニア地域向けが+1.4%。

品目別では、米州向けの自動車関連が伸び悩んだものの、欧州向けに自動車関連、アジア向けでは半導体関連の荷動きが堅調。

輸入は自動車関連、生鮮貨物の取扱いが増加。

BILT-2(ビルト・ツー)を中心としたロジスティクス業務も堅調に推移。

国内貨物は営業日数減の影響を受け、ほぼ前年並みの売上げ。

輸出において仕入単価が大幅に上昇し、差益率が低下した状態で推移したことが、減益の主要因。

◇海運・・・増収、増益

輸出は主に設備輸送関連が売上げを支える状況が継続。

輸入はアパレル・自動車関連の取扱いが増加した一方で青果関連は振るわず、全般に低調に推移。

海外引越は輸出入とも好調を維持し、利益面でも大きく貢献。

内航海運は飲料関連の荷動きが低調だったことや、燃油費下落に伴う収受額の減少が影響し、減収。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

6) 米州

(単位：億円、%)

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	237	182	54	29.8	494	48.1	256
セグメント利益	13	9	4	43.9	22	59.7	9
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国において、西海岸における港湾の労働争議長期化の影響で、航空・輸入の取扱いが大幅に伸長。 ・ メキシコにおいて、自動車関連のお客様の設備増強に伴う、海運・輸入が堅調に推移。 						

7) 欧州

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	202	197	5	2.8	404	50.2	201
セグメント利益	4	4	△0	△16.4	8	47.3	4
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドイツ、スペインにおいて、自動車関連の航空・輸出フォワーディングが堅調に推移。 ・ オランダにおける電子・電機関連の倉庫配送が順調に売上げを伸ばした一方で、新規業務立ち上げに伴う初期費用の発生、ロシアでの経済低迷による荷動きの鈍化により、減益。 						

※海外の第1四半期は、1-3月期。

◇米州・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

米国において、西海岸における港湾の労働争議長期化の影響で、航空・輸入の取扱いが大幅に伸長したほか、自動車関連の域内トラック輸送、倉庫配送が好調を維持。

メキシコでは、自動車関連のお客様の設備増強に伴う、海運・輸入が堅調に推移。

◇欧州・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。

ドイツ、スペインにおいて、自動車関連の航空・輸出フォワーディングが堅調に

推移したほか、2015年1月から営業を開始したオランダにおける電子・電機関連の倉庫配送が売上を伸長。

一方で、オランダでの新規業務立ち上げに伴う初期費用の発生とともに、ロシアでの経済低迷による荷動きの鈍化により減益。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

8) 東アジア

(単位：億円、%)

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	283	230	52	23.0	578	49.0	294
セグメント利益	2	3	△0	△28.4	9	25.0	7
概況	<ul style="list-style-type: none"> 中国では、自動車関連、電子・電機関連の航空・海運フォワーディングが好調だった一方で、利用費も高騰。 香港、台湾、韓国での倉庫配送が堅調に推移しているものの、地域全体において、コスト増により、減益。 						

9) 南アジア・オセアニア

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	190	139	50	36.6	368	51.6	177
セグメント利益	4	2	1	46.9	5	74.4	1
概況	<ul style="list-style-type: none"> 米国西海岸の労働争議長期化の影響により、自動車、電子・電機関連の航空・輸出フォワーディングの取扱いが大幅に増加。 地域全体の課題であった各種コストのコントロールが効き、増益。 						

※海外の第1四半期は、1-3月期。

◇東アジア・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。

中国では自動車関連、電子・電機関連の航空・海運フォワーディングが好調だった一方で、利用費も高騰。

自動車関連の調達物流の取扱いは、お客様の新工場建設に伴って売上げは伸びたものの、輸送効率が低下。

香港、台湾、韓国における倉庫配送の取扱いも堅調に推移している一方で、地域全体において、人件費、利用費、外注費が増加傾向にあり、減益。

◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

フィリピン、タイにおいて米国西海岸の労働争議長期化の影響による

チャーター便輸送を含め、自動車、電子・電機関連の航空・輸出フォワーディングの

取扱いが大幅に増加。インドネシアでは電子・電機関連の倉庫配送の取扱いが

順調に伸長。地域全体の課題であった各種コストも、コントロールが効き、増益。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

10) 販売

(単位：億円、%)

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	931	1,021	△90	△8.8	1,968	47.4	1,036
セグメント利益	14	15	△1	△8.3	31	46.1	16
概況	<ul style="list-style-type: none"> 石油類の販売単価の下落により、減収。 前年のユニフォームの大口受注といった特殊要因により、減益。 						

11) その他

	1Q実績		前年同期対比		上半期業績予想(5/8発表)対比		
	16/3期	15/3期	増減額	増減率	上半期予想	進捗率	差額
売上高	411	266	144	54.2	848	48.5	436
セグメント利益	△2	2	△4	△191.4	9	△23.1	11
概況	<ul style="list-style-type: none"> 前年度第3四半期から連結子会社となった、日通NECロジスティクス社が、増収に大きく寄与。 日通・パナソニック ロジスティクス社における家電の取扱い減少、日通キャピタルのロジスティクスファイナンスの取扱い減少などの影響により、減益。 						

◇販売・・・減収、減益

石油類の販売単価が下落したことにより減収となったほか、ロジスティクス・サポート事業は堅調だったものの、前年にユニフォームの大口受注といった特殊要因があったために、減益。

◇その他・・・増収、減益

前年度第3四半期から連結子会社となった日通NECロジスティクス社が収入の増加に大きく寄与。日通・パナソニック ロジスティクス社において、家電の取扱いが減少したことや日通キャピタルのロジスティクスファイナンスの取扱減少及び一部事業の終了などの影響により減益。

II. 経営計画の進捗状況



日通グループ経営計画 2015 -改革と躍進- 基本戦略の進捗状況

基本戦略	項目	進捗状況	
国内事業の経営体質強化	2016年3月期 国内複合事業営業利益率 3%	2016年3月期1Q実績 (2015年3月期実績 (2015年3月期1Q実績	2.3% 2.5%) 1.4%)
グローバルロジスティクス 事業の更なる拡大	2016年3月期 国際関連事業売上高比率 40%	2016年3月期1Q実績 (2015年3月期実績 (2015年3月期1Q実績	37.3% 34.7%) 33.2%)

◇国内複合事業営業利益率3%達成に向けて
前年対比で0.9ポイント改善。引き続きコスト削減と営業力の強化に注力。

◇国際関連事業売上高比率40%に向けて
重量品建設の海外工事や海運・輸出の売上げが堅調だったことに加え、
海外会社が売上げを伸長。

III. 外部環境の変化



A. 増減要素（1Q）

変動要素	連結業績への影響 (1Q)	参考
燃油費単価変動 による影響	燃油費 $\Delta 15.2$ 億円 (費用減)	(前年同期) 軽油 : 92.75円/ℓ (120.08円) ガソリン : 129.29円/ℓ (151.99円) 船舶重油 : 50.28円/ℓ (73.97円)
為替による影響	売上高 +71.5 億円 営業利益 +2.1 億円	(前年同期) USD : 119.09円 (102.78円) EUR : 134.18円 (140.79円) HKD : 15.35円 (13.25円) RMB : 19.08円 (16.90円)

III. 外部環境の変化



B. 外部要因の想定（2Q以降）

変動要素	連結業績への影響 (2Q以降の9ヶ月)	前提条件
燃油費単価変動 による影響	燃油費 $\Delta 22.3$ 億円 (費用減)	(前期年間平均) 軽油 : 94.55円/ℓ (110.55円) ガソリン: 129.28円/ℓ (144.40円) 船舶重油: 52.21円/ℓ (66.47円) 使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 +164.4 億円 営業利益 +5.6 億円	(前期年間平均(※)) USD : 119.40円 (105.85円) EUR : 130.90円 (140.42円) HKD : 15.40円 (13.65円) RMB : 19.20円 (17.19円)

(※) 年間為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを、現地通貨建の四半期実績に適用している。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。